



# これでいいの？

# 学校読書ボランティア



「栃木県子どもの読書活動支援ボランティア活動状況等調査」  
(平成十七年度)をもとに

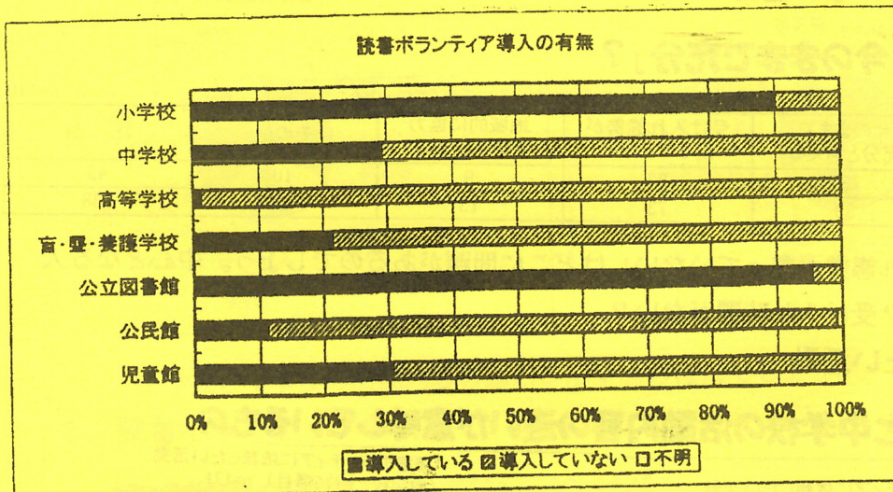
栃木県では、平成十七年十月に、子どもの読書活動を支援するボランティア（以下「読書ボランティア」という）の活動状況調査を行いました。小・中・高等学校、養護学校、公立図書館、公民館、児童館を対象とし、それらの施設で活動する読書ボランティアの実態を把握するためです。

私たち栃木県子どもの本連絡会「学校図書館プロジェクト」では、これまでも学校の読書ボランティアについて考えてきました。そこで、この調査結果のうち特に小・中学校で活動している読書ボランティアについて、注目しました。

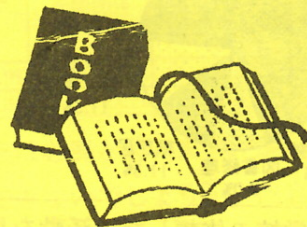
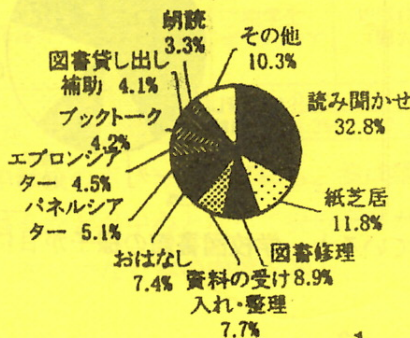
調査結果をわかりやすく、皆さんにお知らせするとともに、それをどう考えたらいいのか、問題提起をしていきたいと思えます。

## こんなに広まっている！ 読書ボランティア

調査は全体に回収率九一・九%という精度の高いものでした。何らかの形で読書ボランティアを導入している施設のうち、下のグラフでも明らかのように、特に小学校と公立図書館は九〇%以上という高い割合で読書ボランティアを導入しています。読書ボランティアの活動内容は、円グラフで示されるように、多岐にわたっていますが、全体として最も多いのは「読み聞かせ」となっています。



主な活動内容  
(全体：上位10項目) 753 (人・団体)



#### 4. 活動頻度

### 行事がある時のみ(年に数回)がけっこうある

n=504

	週に4~5日	週に3日	週に1~2日	月に1~2回	不定期(行事等があるときのみ)	その他	不明	総計
小学校	3	6	119	158	59	34	0	379
中学校	0	0	13	14	18	5	1	51

中には年に1度のボランティアもあります。日常的な活動支援とイベント的な活動は別と思います。ある程度、定期的な活動が必要ではないでしょうか。

### 導入していない施設の状況

#### ①. 今後の導入

### 中学校「考えていない」は倍近い

n=403

	考えている	考えていない	不明	総計
小学校	34	7	1	42
中学校	46	75	2	123

中学校で求めている人はボランティアではなく、専門の職員(学校司書)ではないでしょうか?それとも読書のことまで手が回らないのでしょうか?

#### ②. 導入していない理由

### 中学校「今のままで充分」?

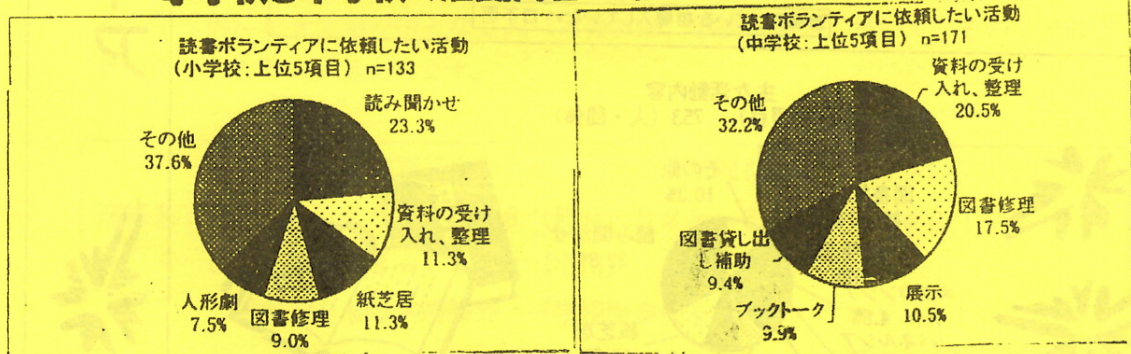
n=146

	今のままで充分と考える	受け入れ態勢が整っていない	地域的に協力要請がしにくい	その他	総計
小学校	3	23	9	10	45
中学校	30	73	13	22	138

「受け入れ態勢が整っていない」はどこに問題があるのでしょうか。中心となる人がいない?受け入れ時間がない?

#### ③. 依頼したい活動

### 小学校と中学校の活動内容の違いが意味しているもの



中学校の依頼したい活動を見ていると、学校図書館の様子が目に浮かぶ?

## 読書活動支援ボランティア活動状況

小・中学校の場合

### 1. 導入の有無

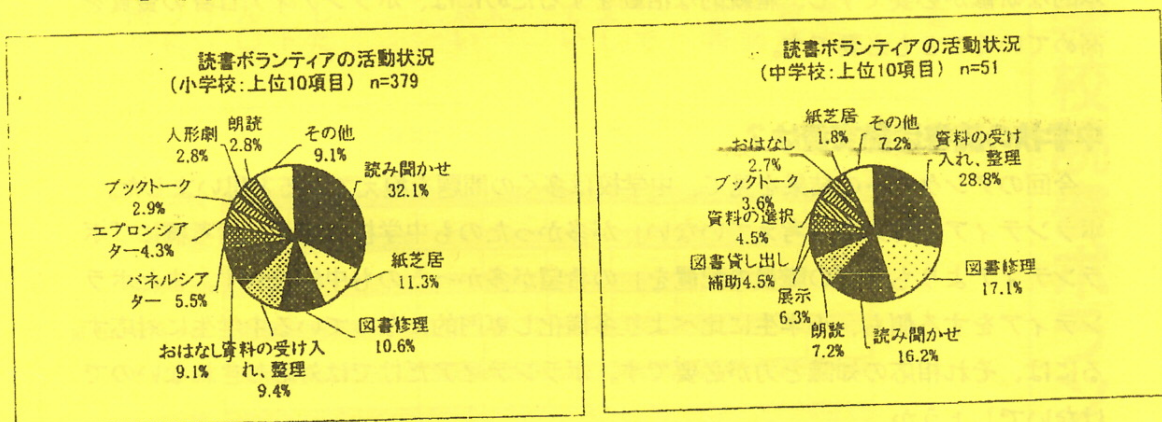
#### 小学校では90%以上の導入

前ページの調査結果の通り、小学校ではほとんどの学校に読書ボランティアが入っている現状です。2000年2月に調査した、宇都宮市のデータによりますと、ボランティアの導入は59校中32校54%という結果です。この4、5年の間に飛躍的に数が増えたことが分かります。

しかし、この結果は導入しているか、否かだけの結果であって、内容は千差万別です。

### 2. 読書ボランティアの活動内容

#### 小学校では「読み聞かせ」中学校では「資料の受け入れ、整理」



小学校と中学校の活動内容の違いが示すものは何でしょう？

### 3. 読書ボランティアの構成

#### 養成講座の修了者は、ほとんどいない

	保護者	高校生ボランティア	中学生ボランティア	地域住民(個人)	民間団体	施設で実施する読書ボランティア養成講座の修了者	その他	総計
小学校	229   40.4%	3   0.5%	4   0.7%	164   28.9%	136   24.0%	4   0.7%	27   4.8%	567   100%
中学校	25   36.2%	0   0.0%	3   4.3%	19   27.5%	16   23.2%	0   0.0%	6   8.7%	69   100%

小・中学校のボランティアにも、養成講座は必要と思います。地域の図書館や教育委員会などが中心となって養成講座ができないでしょうか。内容的には技術的なことだけでなく本の内容を知る、というような継続的な講座が望まれます。

## 学校読書ボランティアの急激な増加！

学校図書館に正規の職員がいないために、子どもたちの読書活動を支援するという意味では、ボランティアの増加はある程度うなずける現象です。しかし、今回の調査にあらわれたボランティア活動の中には、恒常的な読書支援というよりは、学校の行事支援や、イベント的なお楽しみ会としての活動も含まれます。そうした活動も、もちろんあっていいのですが、子どもの読書に本当に結びつく活動かどうか、考えてみてください。

## ボランティア自身、「子どもの本」のことをよく知っていますか？

学校の呼びかけに応じて、「とにかく子どもに読んでやればいい」ということで始まった、読み聞かせボランティアが多いと思われます。しかし、子どもたちに本当に本の楽しさを伝えるためには、①年齢の異なる子どもの発達段階の違いをよく認識し、②多様な子どもの本そのものについての広い知識を持ち、③時と場合に応じて①②の組合せを柔軟に応用していく力を持つことが理想です。ボランティアであっても、基本的な研修が必要ですし、継続的な活動をするためには、ボランティア自身の資質を高めていくことも必要です。

## 中学校の読書活動支援は？

今回のアンケートの結果を見て、中学校は多くの問題を抱えていると思いました。ボランティアの導入を「考えていない」が多かったのも中学校ですが、備考欄に「ボランティアよりも専門の職員の配置を」の希望が多かったのも中学校です。またボランティアをする側も、小学生に比べより多様化し専門的になっている中学生に対応するには、それ相応の知識と力が必要です。ボランティアだけでは対応しきれないのではないのでしょうか。

「今のままで充分」のポイントも高いのですが、現実に満足しての充分とも思えません。読書活動の必要性を充分感じつつも、対応する人や時間がないのかもしれない。学校側に読書活動の核となる人（司書教諭、学校司書等）がいて、その上でのボランティアの導入が望まれます。